

令和7年度 東京都立文京盲学校 学校経営報告

校長 安田 咲登子

I 今年度の取組と評価

令和7年度は、以下の目指す学校像を掲げ、学校経営に取り組んだ。

「自立と社会参加を目指し、希望する進路を実現する学校」

- 1 互いの人権を尊重し、一人一人を大切にする学校
- 2 個別最適な学びを追究する学校
- 3 将来にわたり、幸せに生きる力を育む学校
- 4 地域と連携し、地域へ発信し、地域に貢献する学校
- 5 専門性を磨き、発揮し、信頼される学校

生徒は、希望する進路の実現を目指して学習・諸活動に意欲的に取り組み、充実した学校生活を送ることができた。教職員も一人一人が自己の職責を自覚し、視覚障害教育の充実を目指して、以下の成果や結果が得られた。

(1) 視覚障害教育の専門性を発揮した学習指導

- ・全員研究授業では ICT 機器の活用をテーマに課し、取り組んだ。学校評価からは普通科での肯定的評価が向上したものの、個別最適な活用には課題が残ること、教員間の専門性の差があることが指摘された。
- ・外部資源を活用して、主権者教育、消費者教育、金融教育等に取り組んだ。
- ・普通科・理療科ともにPDF版教科書デジタルデータが希望者全員に提供できるようになり活用を図ることができた。
- ・定期的に授業評価アンケートを実施し、それを基に生徒本人・外部委員も構成員とする授業評価協議会を年3回開き、よりよい授業に向けて意見を交換し、改善に生かすことができた。
- ・外部模試、漢検、英検などで客観的な学力等の把握し、各自の目標に向けて取り組んだ。

(1) 視覚障害教育の専門性を発揮した学習指導		
①スマートスクール端末を活用した授業	随時	○
②他盲学校等とのオンライン授業及び交流（研究指定校）	3回以上	○
③教科書デジタルデータの活用	希望者全員	
④点字ディスプレイの活用	希望者全員	○
⑤重複障害教育に関する専門性の向上（知的・肢体・聴覚等）	講師招聘年10回	○
⑥強度行動障害等への理解と専門性の向上	ケース会研修会随時	○
⑦日本の伝統・文化教育、環境教育の推進	各学年1回以上	○
⑧主権者教育・消費者教育・金融教育の推進	公共及び特別活動を中心に実施	○
⑨視覚障害に応じた学校図書館の充実	蔵書整理サピエ・対面朗読等の活用	△
⑩都立学校等海外派遣研修への生徒派遣	1名以上	×
⑪生徒による授業評価を踏まえた授業改善	年2回	◎

⑫授業評価協議会を活用した授業改善	年 3 回	○
⑬授業改善推進プランの作成	各教科	△
⑭実用英語技能検定、日本漢字能力検定	年 6 回	○
⑮視覚障害教育の基礎定着に向けた新転任研修	年 2 0 回	○
⑯全日本盲教育研究大会への運営協力、参加	延べ 2 0 人以上	◎
⑰視覚障害教育の専門性向上に向けた研究	月 1 回	○
⑱全教員のデジタルを活用した公開授業	一人 1 回以上	○
⑲教育的ニーズに合致した普通科教育課程編成	1 学期まで	○
⑳特別支援学校教諭免許状（特に視覚障害領域）の取得	未取得者全員の認定講習等の受講	△

(2) 人権尊重・生命尊重を根幹とした生活指導 ウェルビーイングの実現

- ・スクールカウンセラーが週2回に拡充され、400件以上の相談、観察等を実施し、専門的見地から助言・指導を受けることができた。
- ・視覚障害スポーツに計画的に取り組み、各種大会に参加するとともに運営にあたった。
- ・引き続き、視覚障害の特性を踏まえた避難訓練の在り方を検討する必要がある。
学校危機管理マニュアルにしたがって実際に動くことができるよう定着させる必要がある。
- ・定期的にいじめアンケートを実施し、生徒間トラブルの早期発見、人間関係の調整に活用できた。
- ・アレルギー対応委員会等で情報共有を徹底し、安全な給食、賄い食の提供ができた。
- ・季節や食材、障害に起因する経験不足を補う特色あるメニューにより食育を推進した。

(2) 人権尊重・生命尊重を根幹とした生活指導 ウェルビーイングの実現		
①いじめ・体罰の状況把握、予防、早期発見、早期対応	年 4 回	○
②スクールカウンセラーによる心のケアに関する取組の充実	週 2 回	◎
③精神保健福祉士による相談	月 1 回程度	○
④産婦人科校医による相談・研修（ユースヘルスケア）	月 1 回	○
⑤地域・関係機関と連携した防災訓練	年 1 回	○
⑥大規模災害を想定した学校危機管理マニュアルの更新	1 学期まで	○
⑦障害特性に応じた防災研修、避難訓練の改善、実施	研修 1 回避難訓練 1 1 回	○
⑧食育の推進、特別食（アレルギー対応食含む）の安全な提供	委員会年 3 回 関連事故発生 0 件	○
⑨いじめの未然防止、自殺予防等に関わる校内職員研修	年 2 回	○
⑩視覚障害スポーツに関する授業（学校 2 0 2 0 レガシー）	年 2 競技以上	○
⑪部活動の充実	加入率 8 0 %以上	△
⑫ヒヤリハット事例の収集と共有による事故防止	2 0 件	○

(3) 希望の進路の実現と家庭、寄宿舍と連携した生活力の育成

- ・普通科は、多様な進路希望（進学・就労とも）に対する情報収集、提供、体験の機会の確保が必要になっている。ニーズに対応できるよう体制等を工夫する。
- ・多くの企業・福祉施設等の協力を得て、見学会、インターンシップ、実習を行うことができた。
- ・寄宿舍では生活実習室体験、外出、身辺面の指導等を通して、将来の自立に向け、ADL の指導に取り組んだ。
- ・外部専門家として歩行訓練士による指導が週 1 回のペースでできた。視覚障害に起因する移動等、生活上の困難に対する指導をさらに充実させていく。

(3) 希望の進路の実現と家庭、寄宿舍と連携した生活力の育成		
①進路先見学会の実施	1学年1回、2年以上個別に実施	○
②進路指導に関する保護者向け説明会、	各学年2回以上	○
③就業体験（インターンシップ）、現場実習	年1回以上	○
④長期休業中の補講、補習、実習等	延べ80回以上	△
⑤普通科3年生の進路実現	100%	○
⑥専攻科3年生の国家試験の合格	100%	○
⑦卒業生アフターケア等の充実	職場等定着率90%以上	○
⑧寄宿舍生活におけるADLの指導、自治活動の充実	随時 舍友会活動 年2回	○
⑨寄宿舍生活での安全・安心の確保、人材連携、機器の活用	人材週2回	○
⑩歩行訓練士と連携した登下校通学指導、一人通学指導	随時（年間25回）	◎

(4) 発信力の向上と地域との連携強化

- ・保護者コミュニケーションシステム(classi)での発信91回行い、保護者への情報発信を充実させた。欠席連絡やアンケートを電子化し、情報アクセスの改善とペーパーレス化を図った。
- ・ホームページの更新とXでの情報発信に努めたが、組織的な発信に向け課題が残った。
- ・企業と連携した清掃活動、専攻科臨床実習（のべ約1000名）等、地域への発信と貢献に取り組んだ。また、各種作品展、美術展等に積極的に出展し、理解啓発に取り組んだ。
- ・新しくSwayやQRコードを活用して、学校広報や理解啓発に取り組んだ。

(4) 発信力の向上と地域との連携強化		
①保護者コミュニケーションシステムの活用	発信80回以上	◎
②保護者学校評価（アンケート）回収率の向上	90%以上	○
③寄宿舍参観週間の実施、寄宿舍保護者会の実施	年1回	○
④学校Webサイト（ホームページ）の更新	年200回（Xを含む）	△
⑤学校公開・オープンキャンパスへの参加促進	延べ50名	△
⑥理療科による臨床実習を活用した地域貢献	校内：週5日、のべ800名以上	◎
⑦学校案内パンフレットの改訂、方法の工夫（SNS活用）	随時	◎
⑨コーディネーター等による関係諸機関等への相談支援	延べ100回（入学相談対応含む）	△
⑩「東京都ロービジョンケアネットワーク」への参加・協力	年間を通じて随時	○
⑪体育施設開放	地域開放年間400回 中野特支年間80回	○

(5) 組織的、効率的な学校運営による信頼される学校づくり

- ・経営会議を週1回位置づけ、各部署の課題の早期把握、解決及び進行管理を行い、4級職からの提案企画に基づく学校経営に取り組んだ。
- ・教職員のストレスチェックから強み、弱みを分析し、安全衛生委員会、職員会議等で意識付けを図った。
- ・職員室の環境改善事業を受託し、ニコニコプロジェクトを組織して、視覚障害教員とともに協働できる安全で整理された職場環境を目指した。
- ・働き方推進プランに則り、時間外在校時間については一定の成果があったが、他の要素も含め、よりよい職場風土づくりに取り組む。

(5) 組織的、効率的な学校運営による信頼される学校づくり		
①自己申告「今年度の職務目標」の明確化と進捗状況の確認	年3回以上	○
②経営会議による各部署の課題の早期把握・解決	週1回	○
③進捗表による進捗確認と評価・修正	年4回	×
④紙媒体資料の削減	ペーパーレス会議、データ配布	◎
⑤予算調整会議による計画的な執行管理センター執行率向上	年3回 60%以上	○
⑥「定時外在校45時間/月」超過者	12%未満	△
⑦服務事故防止研修、接客研修	年10回 サービス事故ゼロ	○
⑧ロールモデルとなる接客、丁寧な対応の徹底	電話対応 外部対応研修各1回	○
⑨職員の心身の健康増進とメンタルケア	安全衛生委員会の活用 月1回	○
⑩「教職員のストレスチェック」分析における健康リスク値	各項目：105以下、総合：110以下	◎
⑪教職員アンケート「ライフ・ワークバランスに向けた精選など働き方改善に取組」に対する肯定的評価	70%以上	○

II 次年度以降の課題と対応策

1 視覚障害教育の専門機関として教育力の向上（デジタル技術活用・読書活動を含む）

統合型学習支援サービスやPDF版教科書デジタルデータの活用など、今年度も一定の向上が見られた。しかし多様な見え方の生徒に対し、個別最適な学びに向けて、引き続き全校で取り組む必要がある。特に視覚障害支援機器・ソフトについて専門性の向上、図書室の利活用を図る。

2 多種多様な希望に応える進路指導の充実

本校の目標である「希望の進路の実現」を具現化するため、計画的に進路指導をすすめる、生徒の進路選択を支援するとともに、進学、就職（企業・福祉）等、幅広い進路について情報収集、情報提供を行う。また、視覚障害以外の障害を有する生徒への将来の社会参加・自立に向けて、指導・支援の充実に努める。

3 本校（盲学校）の魅力の更なる発信（広報活動の充実）

学校Webサイト（ホームページ）やSNSの組織的・計画的な運用により、本校（盲学校）の取組をより積極的に発信する。また、専攻科臨床実習、普通科清掃活動等によって地域貢献の機会を充実させる。

4 働き方改革の推進

教職員の時間外在校時間については全体としては縮減傾向であるが、個人差が大きい実態がある。ペーパーレスなどにより校務のDX化を進めることができた。人事部職員課「職員室の環境改善事業」を契機として、障害の有無に関わらず、働きやすい職場、働きがいのある職場を追究したが、環境変化への戸惑いも見られる。方針の丁寧な説明とともに、教職員の主体的なアイデア、工夫を抽出できるようにする。